

佐賀市における街区形成と緑の実態

佐賀大学理工学部都市工学科 ○学生会員 笠 洋 志
 佐賀大学理工学部都市工学科 正 会 員 外 尾 一 則
 佐賀大学理工学部都市工学科 正 会 員 猪 八 重 拓 郎
 佐賀大学理工学部都市工学科 正 会 員 永 家 忠 司

1. 研究の背景と目的

1980年代後半から1990年代初頭にかけての、いわゆるバブル経済によって発生した、都心部を中心とした大幅な地価高騰や再開発等によって、中心市街地の物理的な環境は激変し、コミュニティの崩壊や町並みの破壊などが日本の都市に数多く存在している。また、地球環境問題の多くは都市内部を起源としていることが多い。都市づくりが環境と調和するための視点として市街地に存在する緑に注目する。

本研究では都市全体を包括的に見るのではなく、その内部の構成を分析の空間単位とし、街区単位での町並みの形成と緑の存在形態やボリュームの実態に着目し、佐賀市を対象に町並みを分析することを目的としている。

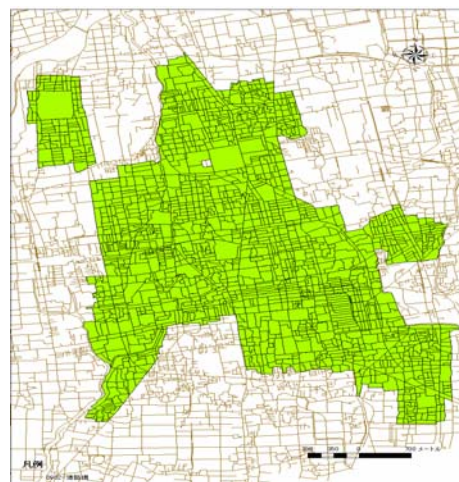


図1 佐賀市の街区

2. 研究の方法

本研究では、佐賀市を街区単位に分割して行う。

①GISを用いて、街区别における緑地率、水路率、建蔽率、面積、建物個数等のデータ整理 ②街区における緑地率の多い上位30街区と緑地の少ない下位30街区を検出 ③②で抽出した街区について道路面積、駐車場面積、非建蔽率の現状について現地調査 ④比較及び考察してまとめる。

3. 研究結果

街区とは、道路、鉄道、河川などで区切られた区画の単位である。この街区の中にある要因は建物、道路、非建ぺい地(オープンスペース)、空き地、駐車場、自然等がある。

①図1は佐賀市の街区の中でも緑地率が高い街区の平均的な街区の要因を表したもので、図2は非自然の街区のものである。緑地の高い街区では56%も緑地が占めている。このような街区は佐賀市においては郊外部分に存在する。また、緑地のほとんどが畑や田といったもので、他には公園や神社、寺などが緑地としてある。

自然のない街区は水路密度や緑地密度は0%だが、実際のところ、個人の庭などに植樹したり、広い庭には畑などを利用したり、道路に木があつたりしている。このようなものは面で捉えることができないため、0%となっている。

2つの街区ともに非建ぺい率が高く次に道路、建物が街区を占めていることになる。

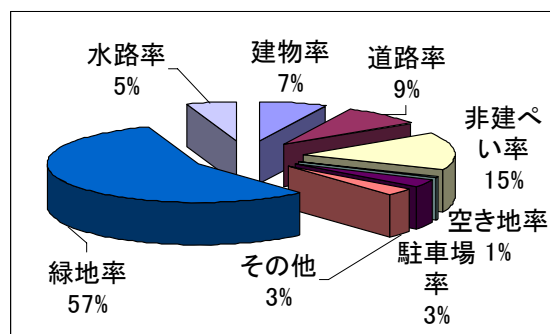


図2 緑地街区の要因割合

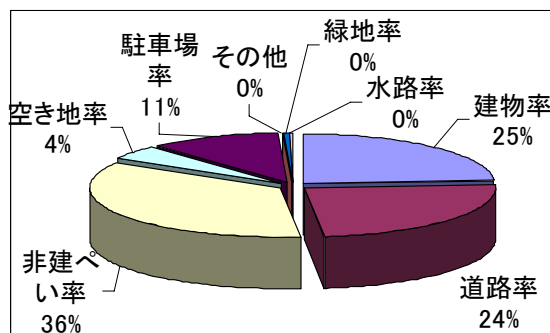


図3 非自然街区の要因割合

②表1は両街区における自然を外した主要要素である。この表により両街区を比較してみると、注目すべきものは建物率、非建ぺい率、駐車場率である。緑地街区は佐賀市の郊外に位置するため、家やアパートなど住宅が多く存在しているため、敷地内に庭が大きく存在することになる。そのため、非建ぺい地に駐車場を設け、敷地全体が駐車場(月決め駐車場等)のような場所は少ない。逆に非自然街区は佐賀市において中心市街地に多く位置するため、ビルやホテル、商業施設などが多く存在しているため、建物率は高くなっている。またビルや商業施設においては敷地全部において建物を構える傾向にあるため、非建ぺい地が少ないところがおおくある。そのため、非建ぺい率は低くなり、消費者確保のためにも中心市街地には月決め駐車場や有料駐車場などの駐車場の確保が必要となっている。また、商業施設などの非建ぺい地は全体を駐車場などにしているため、駐車場率が高くなっている。

表1 両街区の主要要因

	緑地街区	非自然街区
建物率	19%	24%
道路率	22%	24%
非建ぺい率	41%	37%
空き地率	2%	4%
駐車場率	8%	11%
その他	8%	0%

4. まとめ、考察

両街区の緑地と水路の面積を省いて、全体で街区の構成を見てみると、建物率 23%、道路率 24%、非建ぺい率 37%、空地率 3%、駐車場率 10%、その他 3%という値が得られた。このことより、佐賀市において街区には非建ぺい率が大きく占めていることがわかる。この非建ぺい地を駐車場として利用している割合は 21%である。ということは残りの 79%は庭や物置などへの利用である。非建ぺい地の中に緑地が多くなればそれだけ緑豊かな都市であるとともに、ヒートアイランド現象の緩和など地球規模での環境問題の緩和にも繋がると考えられる。また、現地調査によって緑地を調べたところ、緑地のほとんどが畑や田といったもので、公園などの緑と触れ合えるような場所はあまり見られなかった。そこで、その 79%を緑地として活用する方向が重要であると考ええる。

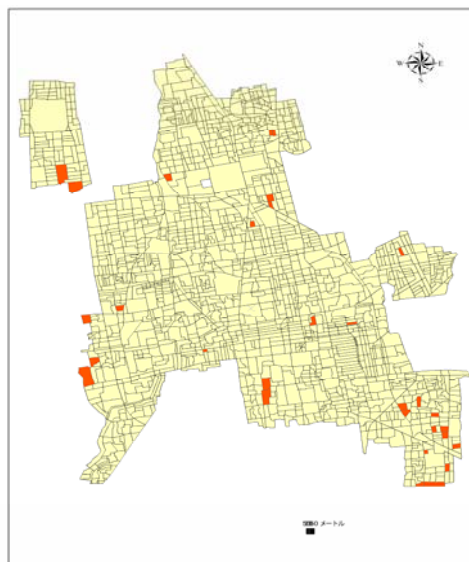


図4 緑地街区

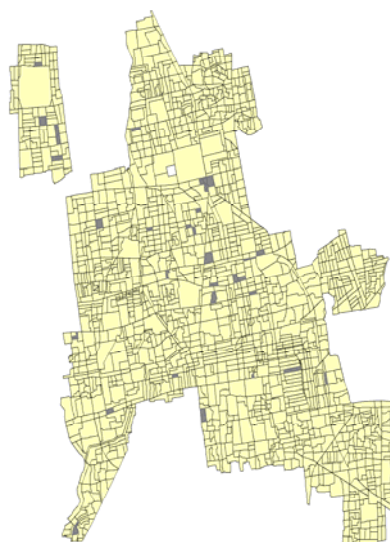


図5 非自然街区